

コロナ禍を受けて「つながり」を求める 保護者の姿が明らかに

ベネッセ教育総合研究所では、コロナによる感染症の流行とそれに伴う生活環境の変化が、幼児と保護者に与えた影響を明らかにすることを目的に、調査を実施しました。その結果から見てきたのは、子育てを通じた「人とのつながり」を強く求める保護者の思いでした。

8割以上の保護者が 以前より「つながり」を重視

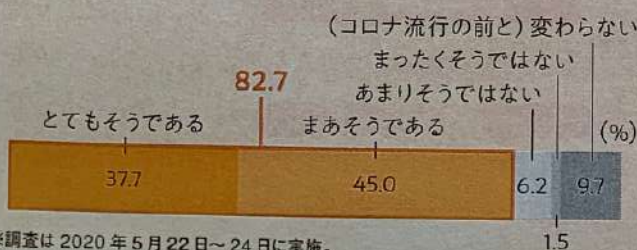
コロナ流行による保護者の気持ちの変化を象徴的に表しているといえそうなのが、(図1)です。流行前と比べて、「人とのつながりを大切にしたいと思うようになった」と答えた保護者は、実に8割にも上りました。その背景には、コロナ禍により一時的に人とのつながりが断たれて、物理的、精神的にさまざまな不安や苦勞が生じやすい状況があったことが考えられます。

「コロナ流行に伴う悩みや気がかり」を聞いた設問でも、子ども同士のつながりがもてないだけでなく、保護者自身が園や地域とのつながりを失ったことに悩む声が少なくありませんでした(図2)。自由記述回答にも、「子育て支援センターなどで、ほかのお母さんや子どもたちと交流できることがどれほど貴重な時間だったかと改めて感じた」「園は、ただ預かってもらう場所ではなく、子どもも親も第三者とかかわって育つ場所だと感じた」といった声が寄せられました。

人とのつながりの有無は 子育てに対する気持ちに関連

「人とのつながり」は、子育てに向き合う気持ちにも関連するようです。子育てを通じた人とのつながり

図1 人とのつながりを大切にしたい



※調査は2020年5月22日～24日に実施。

図2 コロナ流行に伴う悩みや気がかり



※複数回答。 ※調査は2020年5月22日～24日に実施。
※緑区域=緊急事態宣言区域は、調査時期において緊急事態措置が実施されていた北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、東京都の5都道県の母親358人の回答。

があると答えた保護者のほうが、子育てに楽しさを感じやすく、不安や悩みを抱え込みにくいという結果が出ています(図3)。子育てに悩みはつきものですが、自分の感情を言葉にしたり、だれかに受け止めてもらったりすると、不安感が和らぎ前向きに考えられるようになるものです。そうした機会を奪うことになったコロナ禍は、子育て中の保護者に「人とのつながり」の大きさを改めて浮かび上がらせたといえます。

「Withコロナ」時代に つながりをどう強めるか

4～5月の緊急事態宣言下のように対面による接

■ 幼児・小学生の生活に対する新型コロナウイルス感染症の影響調査

調査目的：新型コロナウイルス感染症の流行とそれに伴う生活環境の変化が、幼児と小学生の親子に与えた影響を明らかにすること。

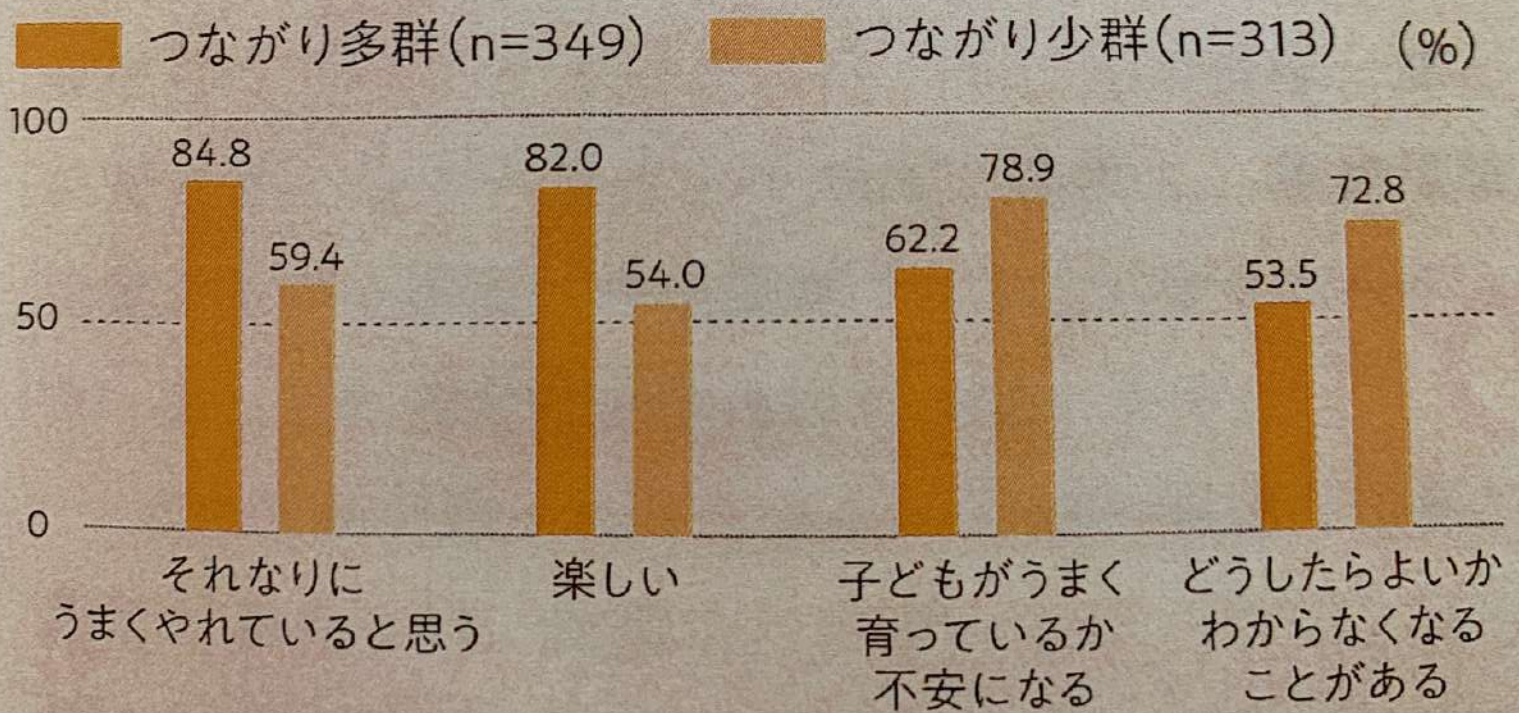
調査方法：インターネット調査 **調査地域：**全国

調査時期：2020年5月22日～5月24日

調査対象者：1歳児(2018年度生まれ)～小学6年生の子どもをもつ母親2,266人

調査項目：子どもの生活実態や子どもの様子/母親の子育ての悩みや気がかり、子育てに関わる意識、養育行動、今後の子育て・教育への意向など

図3 子育てに向き合う気持ち(子育てを通じた人とのつながり別)



※とてもあてはまる+まああてはまる。 ※ () はサンプル数。

※つながり多群・少群は(配偶者・パートナー以外に)「子育てについて気軽に話せる人」「子育ての悩みを相談できる人」「子育ての情報を教えてくれる人」「子どものことを気にかけてくれる人」「あなたのことを気にかけてくれる人」への回答を得点化、合計を3区分した(中群略)。 ※調査は2020年5月22日～24日に実施。